

29【F】1705

亜鉛錯体による慢性肝疾患の抗繊維化療法
Inhibition of chronic hepatic-fibrosis by zinc complex

○高松 正剛¹(¹岸和田徳洲会病院 消化器内科)

亜鉛は肝不全の精神神経症状に対する治療薬のひとつとして挙げられているが、我々はコラーゲン代謝に及ぼす亜鉛の役割に注目し、肝線維化の抑制療法としての亜鉛補充につき検討した。対象は慢性肝炎41例肝硬変16例計57例で、10例をコントロールとし47例に亜鉛含有胃粘膜保護剤（一般名Polaprezinc、含有亜鉛量33.9mg/日）を一年間経口投与した。線維化の測定は肝組織切片中の線維化面積比（%）を生検せずに血液生化学および線維化マーカーより計算で求める演者の方法を採用し、算出された値（%）を予測線維化指数（Predictive Collagen Index：PCI）と呼んだ。全例の治療前血中亜鉛は平均±SD＝56±8 μg/dl（健常人88±10）と低値で、またPCIとは負の相関を示し、肝病変が進行し線維化が高度になるほど血中亜鉛も低くなることが判明した。投与例のうち一年後の血中亜鉛値が平均前値+2SD＝72 μg/dlに達しなかった21例を亜鉛微増群、72以上に増加した26例を亜鉛著増群とし、対照群とともに比較検討した。3群間で治療前の各種検査値・パラメーターはPCIを含め有意差は無かったが、一年後のPCIは著増群でコントロール群および微増群より低値を示し線維化の抑制が示唆された。なお著増群ではアンモニアやアルブミンで示される蛋白代謝能も改善していた。以上の結果から、慢性肝疾患の抗線維化療法として亜鉛補充が有望と思われた。